

整佑会誌

第十七号



秋田大学整形外科同窓会

札幌羊ヶ丘病院研修報告

市立角館総合病院 青 沼 宏

「青ちゃん、専門は何にする。」2014年の秋、島田洋一教授が当院へご執刀にいらっしゃった折、そうお尋ねになりました。煮え切らない態度でしばらく悩んでいると、このままでは埒が明かないとお察しになった教授から一言、「よし、札幌羊ヶ丘病院に、足の外科の勉強に行って来い。俺から連絡しとくから。」そのときはあまりに突然だったため少しとまどいでしたが、卒後10年で専門といえる分野がなかった自分にとって大変有難いお言葉でした。こうして晴れて足の外科を専門とすること決まり、2014年10月27日から2週間、足の外科を勉強するため札幌羊ヶ丘病院で研修させていただくことになりました。

札幌羊ヶ丘病院は、札幌の中心地から少し離れた厚別区というところにあり、最寄りの新さっぽろ駅までは札幌駅からJRで10分程度かかります。研修期間中は駅ビルに隣接したアークシティーホテルに滞在しました。病院へは、ホテルから駅構内を通過して路地にでて、科学館公園沿いの緩い坂道を登って行くとおおよそ10分で到着します。10月末の札幌は紅葉が見頃で、休日に訪れた大通公園や時計台などでは、黄色く色づいたイチョウや赤く染まったモミジなどが青い空とひんやりとした空気により一層映えていました。昨年の北海道は例年より冬の訪れが少し早かったようで、10月28日には初雪が降り、休日に妻から頼まれた「水曜どうでしょう」グッズを求めてHTB（北海道テレビ）まで行ったときは吹雪で心が折れそうになりました。

自分を指導してくださった倉秀治先生は足とスポーツ外科を専門としておられる方で、穏やかな外見からは想像できないほどアグレッシブに手術をされている先生でした。患者さんの満足度を重視した診療をされており、外来にいらっしゃる患者さんは全員とっていいほど治療に満足されていたのがとても印象深かったです。自分だったら「高齢だし足の変形はうまく付き合ったほうがいいんじゃないか」と思わず逃げに走ってしまいそうな方でも、治療をあきらめない、あきらめさせない診療の姿勢に大変感銘を受けました。技術的なことも当然ですが、このような倉先生の哲学は、自分自身の医師としての目標になっています。また、休日にも関わらず時間を割いて小講義をしていただき、足関節接触面積の変化に関するご自身の研究から変形性足関節症の病態の考察、治療のストラテジーまで幅広くご教示いただきました。仕事終わりにはお疲れのところ、たびたび夕食に誘っていただきました。特に札幌中央区南3条にある“ひげのうし”でごちそうになったジンギスカンは良い意味でジンギスカンっぽくなく、牛とは違ってクセはあるけど食べやすくジューシーでビックリするくらいおいしかったです。

羊ヶ丘病院の研修は毎朝リハビリテーションカンファレンスから始まりました。主治医と担当PT、病棟看護師が一同に集まり、術前の問題点や術後リハの進捗状況を共有します。まだまだ手技が安定しているとは言えない自分の場合とは違い、倉先生の外反母趾やTKAは術後のトラブルもなく手技が確立されているため、術後リハはみな同じプロトコルで進んでいました。外来は、火AM、水、金AMの週3日でしたが、毎日のように手術が決まり、あっという間に1か月先の予定が埋まってしまう状況でした。どの患者さんにも、積極的にリハビリテーションを勧めていらっしゃり、改めてリハビリテーションの重要性を認識されました。また、羊ヶ丘病院では医療クラークが、紹介状作成や検査・再診予約の調整といった普段自分がやっていた煩わしい仕事の多くをサポートしてくれているため、外来の流れがとてもスムーズでした。外来以外の時間は常に多く

の手術が予定されていました。研修期間中、学会シーズンだったことや、倉先生の市民講座があったこと、月曜日が祝日だったことなどが重なり、いつもより手術件数は少ないと伺いましたが、それでも2週間の間に、足部手術20件、膝関節手術15件の手術に入れていただきました。足部手術は、外反母趾と屈趾症がほとんどでしたが、ほかにも鏡視下足関節固定や人工靱帯を用いた足関節前距腓靱帯再建といった症例を経験させていただきました。膝はTKA、HTO、膝蓋大腿関節OCDに対するmosaicplasty、ACL3重束再建などさまざまな手術をされていました。どの手術もよどみなく進み、ちょっとでもぼーっとしようものなら何をやっているのかわからなくなりそうなほどでした。研修中には、倉式DOMOのプレート固定や中足骨骨切りのスクリュー、PIP関節固定のワイヤー刺入などをさせていただきました。DOMOでは、AO径2.7mmのスクリューあるいはSynthesの2holeロッキングプレートを使って骨切り部を固定していました。いずれの固定でも術中の固定性を重視され、不十分なときはしっかりと固定されるまで径1.8mmのC-wireで固定を追加されていました。また、関節包縫合の際にナイロン糸をかけて底側に回り込んでいる母趾外転筋を引き上げるようにされていました。中足骨の骨切りは近位と遠位のどちらも行っていて、固定には近位骨切りではAOミニスクリュー、遠位骨切りではLeibingerスクリューを使用されていました。研修も終わりに近づいたころ、鏡視下足関節固定があったので足関節鏡をやらさせていただきました。いままで足関節鏡に触る機会はほとんどなかったため、案の定いたずらに時間を浪費する羽目になってしまいましたが、大変貴重な経験をさせていただきました。

このように、自分にとっては実り多い研修となりました。角館に戻ってからは外傷の手術が多く、お世辞にも足部手術が多いとは言えませんが、研修で得た知識を生かしてこれからも研鑽を積んでいきたいと思います。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった島田洋一教授、細かい質問にまで丁寧にお答えいただき熱心に指導してくださった倉秀治先生に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

修了証書 第12号

青 沼 宏 殿

貴殿は、羊ヶ丘病院に於いて、膝並びに足の外科手術を術者として多くの症例を学ばれ、最新医療技術を習得され優秀でありました。

ここに、平成26年10月27日から平成26年11月7日まで研修され修了したことを証します。

整形外科領域において、最先端技術を駆使してご活躍されんことをご期待申し上げます。

平成26年11月7日

医療法人社団 悠仁会 羊ヶ丘病院

理事長 倉 秀 治

病院長 岡 村 健 司

